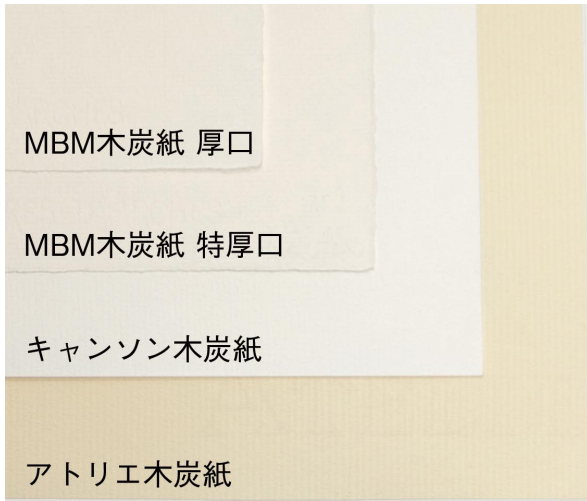




木炭紙

もくたんし

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数
字



概要

木炭紙は、主に木炭などの定着性の弱い描画材に適した紙で、紙の表面には規則的に並んだ筋状の凹凸加工が施され、色材（木炭の粉など）の定着を良くするとともに、描き方の工夫で豊かな表現が可能です。

描画の際に生み出される繊細な調子や濃淡などは、木炭紙特有の柔らかな風合と紙肌によるもので、基本的には紙を傷めないように描き進めるのが大切です。筆圧を抑えるクッションとして、必ず4～5枚程度の木炭紙を下に敷きましょう。塗り重ねる際は、一度塗った木炭を布や指の腹などで軽く押さえ馴らしてから（紙肌の凹部に入れ込むイメージ）、再度塗ることで濃度を上げていきます。また、描画した線などを消すときには、練りゴムや指で強く擦りすぎると表面の凹凸が潰れてしまうため、食パンや柔らかい布を使用しましょう。

市販されている木炭紙には数種類あります。もっとも多く利用されている「MBM 木炭紙」は、フランスのキャンソン社が製造している「MBMスリースター」という日本向けの独自商品で、その名のとおり“☆☆☆”のウォーターマーク（透かし）が入った最高級木炭紙です。コットン（75%）とセルロースを原料とした保存性の高い中性紙で、種類としては、一般的に木炭紙サイズと呼ばれる500mm×650mmで、厚さ（1平方メートルあたりの紙一枚の重量）は105gと130gの2種類のもの、その倍の大きさがある650mm×1000mm（130gのみ）のものがあります。

「キャンソン木炭紙」は、同様にキャンソン社による紙で、コットン（60%）とセルロースを原料とした中性紙です。紙色は着色により純白に近い色で作られています。（元々は同社の「Ingres Vidalon」というカラーペーパーで、12色中の白色のもの）サイズは500mm×650mmで、100gと125gの2種類の厚さがあります。ちなみに、キャンソン社製木炭紙は、他にも廉価版の「Ingres Ecoles」など数種類あります。

「アトリエ」は、日本の製紙メーカーであるミューズが製造している国産の木炭紙です。ウッドパルプ（100%）を原料とした中性紙で、紙色は薄いクリーム色をしていて、サイズ・厚さは、500mm×650mm（107g）の1種

写真 1. 木炭紙各種（拡大写真）

※写真中の紙色は、実際とは異なる場合があります。

類です。

使用上の注意として、描く前に紙の裏表を確認しましょう。紙肌の凹凸がハッキリしている面が表側ですが、ウォーターマークの文字の向きでも確認できます。（「MBM」や「ATELIER」が正しく読める向きが表側です。）また、描画後は色材が取れやすいのでフィクサチーフでしっかり定着させましょう。

木炭紙は、画材店などで購入できます。



鉛筆

透明水彩



コンテ

墨汁



ペンインク

パステル

写真2. MBM木炭紙 厚口における描画例（拡大写真）



木炭



木炭（指で押さえた場合）



木炭（布で押さえた場合）

写真3. 木炭による描画例 [MBM木炭紙 厚口]（拡大写真）

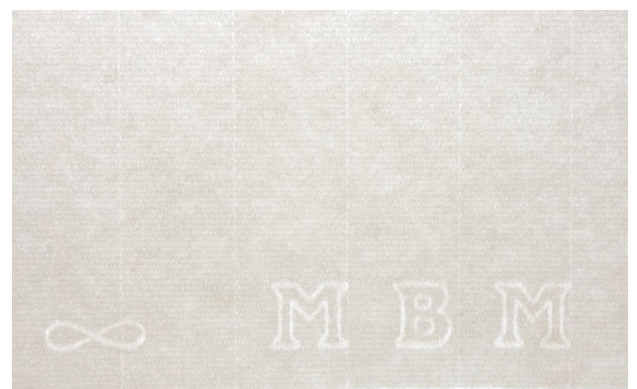


写真4. ウォーターマーク（拡大写真）

※描画例（写真）は、用紙の特性や表現の可能性を示すためのテストサンプルであり、特定の描画材の使用を薦めているものではありません。（一般的には適していないとされる描画材もあえて使用しています。）